

JA全農ウィークリー

4
5
面

施設園芸「ゆめファーム 全農パッケージ」を普及へ（耕種総合対策部）

2面

適正な価格形成と消費拡大を青果卸売団体に要請
生産者の持続的な営農の継続目指す（園芸部）



全国中央市場青果卸売協会を訪
問した乗富幸雄副会長（2面）



「地産地消キャンプ飯」に参加したアウトドア部員の高校生たち(8面)



「ゆめファーム全農」のハウスと遠隔指導システム(4-5面)



- ## 2 コープデリ生協連が環境シンポジウム 桑田専務が全農グループの 取り組みを紹介(営業開発部)

- ### 3 地域農業の活性化と三重県産米の安定供給へ連携(三重県本部)

お米を食べようふくまるキャンペーン
(茨城県本部)

「長生マスクメロン」をライブ配信で
紹介(千葉県本部)

- ## 6 ブランドヒストリー

- ## 7 JAズームイン(広島:JA尾道市)

- 8 「JA全農presents青春アウトドア部」を
放送(広報・調査部)

全国直営9店舗で九州の
アスパラガスフェア(フードマーケット事業部)

JAタウンショップ紹介

JA遠州中央

**Web版JA全農ウィークリーは
こちらから**



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

Web
限定

「アグリマシフェア2022」3年ぶりに開催（群馬県本部）

生産者応援国産野菜フェア開催
(岐阜県本部)

News!



適正な価格形成と消費拡大を青果卸売団体に要請

生産者の持続的な営農の継続を目指す

園芸部

全農は7月21日、全中とともに青果卸売会社の業界団体を訪問し、生産資材価格高騰にかかる青果卸売会社への要請活動を実施しました。

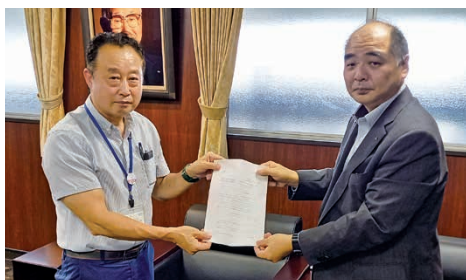
昨今、不透明感を増す国際情勢に伴う海外原料価格の高騰や、急激な円安の進行などにより、生産資材価格が高騰し、生産者の農業経営を圧迫する事態になっています。

こうした状況を受け、全農は青果卸売会社の業界団体である、(一社)全国中央市場青果卸売協会、(一社)全国青果卸売市場協会を訪問し、持続的な生産に向け、営農が継続できる適正な価格形成と国産青果物の消費拡大について要請しました。

業界団体からは「生産者の置かれている状況は十分理解できる。出荷された青果物を少しでも高く販売するという市場の機能をしっかりと果たしていくとともに実需者へも理解を求めている」という回答がありました。



全国中央市場青果卸売協会の川田光会長(東京青果(株)会長)(右)と全農経営管理委員会の乗富幸雄副会長



全国青果卸売市場協会の月田求仁敬会長(熊本大同青果(株)会長)(左)と全農の神林幸宏常務

News!



コープデリ生協連が環境シンポジウム

桑田専務が全農グループの取り組みを紹介

営業開発部

全農の桑田義文代表理事専務は7月12日、東京・大手町で開催されたコープデリ生活協同組合連合会主催「未来へつなごう 環境シンポジウム」のパネルディスカッションに登壇しました。

同生協連は組合員数約520万人で、全農グループ各社が多くの商品を提供しています。シンポジウムは同生協連創立30周年を記念し、環境をテーマに会場とWebの併用で開催され、約350人が出席しました。



環境シンポジウムでのパネルディスカッション

した。

パネルディスカッションは「各団体の環境問題に対する取り組み」「コープへの期待・要望、ともにチャレンジしたいこと」の二つをテーマにし、業界団体や行政から5人が登壇しました。桑田専務は全農グループの環境調和型農業実現に向けた取り組みとして、農研機構などと研究を進める畜産分野のメタン排出抑制や国産子実トウモロコシ実証事業などを紹介しました。

また今後、同生協連とともに「産地や流通過程で廃棄となっている食品の再利用」「総菜の原料として使用されている輸入野菜の国産化」「国産大豆を使用したプラントベースフード」など、環境視点を踏まえた商品開発も進めていきたいとのメッセージを送りました。



地域農業の活性化と三重県産米の安定供給へ連携

日本ゼネラルフード×名古屋食糧×全農みえ

三重県本部



契約水田の看板除幕式。左から、中野眞司県本部長、JAみえきたの松岡琴二常務、日本ゼネラルフードの前田智行食品流通事業部長、名古屋食糧の則竹功雄社長

三重県本部は、需要に応じた米づくりのため、県内で育成された品種「なついろ」の契約栽培を進めています。2022年産から名古屋食糧を通じて日本ゼネラルフードに供給し、企業の社員食堂や学校・病院の給食などで使用される予定です。

同日、桑名市のJAみえきた長島支店で連携協定書調印式と産地交流会を開催。3者の代表者が協定書に署名をしたあと、生産者、JA関係者も参加して意見交換を行いました。また、4月に同社社員らが田植え体験を行った圃場で、「契約水田」看板の除幕を行いました。

三重県本部は7月8日、給食事業を展開する日本ゼネラルフード(株)、米穀卸の(株)名古屋食糧と連携協定を締結しました。



お米を食べようふくまるキャンペーン

LuckyFM茨城放送とタイアップし消費拡大

茨城県本部



特設サイトは
こちらから



新型コロナウイルスの感染拡大で生産・販売に影響を受けている生産者を応援することを目的に、茨城県産米の消費拡大と知名度の浸透を図るため、県オリジナル品種「ふくまる」の新米をプレゼントするキャンペーンを8月31日まで展開しています。

また、キャンペーンはJAグループ茨城とLuckyFM茨城放送がタイアップした初めての試みです。毎週火曜日19時35分からキャンペーンと連動した期間限定コーナーを放送し、ラジオリスナーにもPRを行っています。

【今後の放送日】8月1日、3日、5日、8日、9日、10日

茨城県本部を含むJAグループ茨城とLuckyFM茨城放送は、県産米の消費拡大を目的に、「お米を食べようふくまるキャンペーン」を展開しています。



「長生マスクメロン」をライブ配信で紹介

SNSを活用して直売所からPR

千葉県本部



ながいき市場からのライブ配信の様子

紹介した「長生マスクメロン」は、JAタウン「愛情いちばん館」の夏の人気商品です。

「JA長生ながいき市場」から行われたライブ配信では、直売所店長がメロンの網目の作り方や栽培の工夫などを紹介し、視聴者から多くのコメントをいただきました。また、この日の配信で案内したプレゼントキャンペーンやJAタウン「愛情いちばん館」での限定販売にも、多くの方に応募・注文をいただきました。

JA長生と千葉県本部は、インターネット交流サイト(SNS)を活用した新たな商品PRとして、インスタグラムでライブ配信(ライブコマース)を実施しました。今回は2月のイチゴに続く第2弾です。



「ゆめファーム全農」のハウスと遠隔指導システム

施設園芸

「ゆめファーム

全農パッケージ」を普及へ

人材育成・温室建設・
栽培支援コンサルを一体的に提供

担い手の手取り最大化、
国内生産量・面積の維持拡大に貢献

全農は、「ゆめファーム全農」3圃場^{ほじょう}での成果をもとに、2021年12月に「ゆめファーム全農パッケージ」をとりまとめました。フルスペック温室・ロックウール養液栽培を共通仕様とし、汎用性が高く高収量が可能なパッケージとして、施設園芸農家の手取り最大化と国産野菜の生産維持・拡大を目指しています。今回は、パッケージ作成に至った経過とその内容について紹介します。

【耕種総合対策部】

ゆめファーム全農の取り組み

1999年から2018年までの統計データを見ると、園芸用施設設置面積では約20%、経営体戸数では約40%の減少が進んでおり、単位面積当たり

の収量向上や面積拡大による生産性向上の必要性が高まっています。「ゆめファーム全農」は、園芸用ハウス資材の単純な供給事業から、栽培技術を伴ったパッケージ提供への転換を目指し、2014年にスタートしたプロジェクトです。

14年には栃木でトマト、17年には高知でナス、19年には佐賀でキュウリの栽培を始め、これまでに3圃場の全てで通常栽培の2〜4倍に当たる収量を達成できました。

ゆめファーム全農での栽培実証を通して、①人材育成②温室建設（施主代行）③栽培支援コンサル（栽培技術）

栽培面積あたり収量

	品目	栽培面積 あたり収量
ゆめファーム 全農とちぎ 2014.8/32a	トマト	43.5t/10a
ゆめファーム 全農こうち 2017.4/1ha	ナス	35.0t/10a
ゆめファーム 全農SAGA 2019.12/1ha	キュウリ	56.2t/10a

「ゆめファーム全農パッケージ」で提供する三つの内容は次の通りになります。

①人材育成は、ゆめファーム全農で圃場作業、環境制御機器の操作、労務管理、座学を行い、実習を通して圃場運営に必要な知識と技術を網羅的に学習します②温室建設(施主代行)は、共通標準仕様書(高収量が可能なフルスペック温室・ロックウール養液栽培を基本とした温室)に基づき、基本設計

「ゆめファーム全農パッケージ」について

書の作成、業者選定、施工管理、アフターフォローまでを一体的に提供します③栽培支援コンサルは、営農開始後に直面するさまざまな課題に対応できるよう、現地支援やコックピットによる遠隔栽培指導を通して、担い手生産者の栽培をサポートしていきます。

この①人材育成②温室建設③栽培支援コンサル——を一体的に提供していくことにより、担い手生産者の手取り最大化と、日本の施設園芸の発展、国内生産量・栽培面積の維持拡大に貢献していきます。

「施設園芸・植物工場展」に出展・PR

7月20〜22日に東京ビッグサイト(東京都江東区)で開催された「施設園芸・植物工場展(GPEC)2022」は、2年に1度開催される施設園芸・植物工場分野の専門展示会です。耕種総合対策部施設園芸企画室の吉田征司室長は、ゆめファーム全農とちぎ、こうち、SAGAの取り組みと、実証で得た成果をゆめファーム全農パッケージとして普及する今後の展望について講演しました。

ブース出展では、全農グリーンリソース(株)と協力して、「張らせろ『根』!まわせ『水』!栽培方法の最適化に」とこと



「施設園芸・植物工場展2022」のゆめファーム出展ブース

ん付き合います」をスローガンとして、「ゆめファーム全農パッケージ」で共通仕様としているGrodanロックウールの展示や、Rider製の環境・灌水制御システムの紹介を行いました。また、ゆめファーム全農パッケージの導入希望者の個別相談も行い、盛況のうち



「施設園芸・植物工場展2022」で講演する吉田室長

に終わることができました。施設園芸企画室では、今後もゆめファーム全農パッケージの普及を通して、担い手生産者の手取り最大化や、日本の施設園芸の発展に向けて尽力していきます。「ゆめファーム全農パッケージ」に興味を持たれた方は、左記までお問い合わせください。

ゆめファーム全農パッケージ

栽培研修

- ☑ 営農計画を企て栽培品目を選定
 - ☑ 所定のゆめファーム全農で研修
- ※3〜6か月程度の長期研修

温室建設

- ☑ 補助事業利用検討
 - ☑ 施主代行依頼
- ※基本設計書作成・業者選定・施工管理・アフターメンテナンス等

栽培支援コンサル

- ☑ 栽培技術再現の支援
 - ☑ 実地と遠隔により支援
- ※有料コンサル

栽培研修・温室建設(施主代行)・栽培支援コンサルをパッケージで一体的に提供

問い合わせ先

JA全農 耕種総合対策部
施設園芸企画室

TEL 03(6271)8269 担当 田代



日本三大地鶏「比内地鶏」に総ぐるみ 秋田県北の生産者・JAグループ・行政が育てる

秋田県で古くから飼育され、江戸時代には殿様への年貢として納められた比内地鶏と、そこから現代の技術をもとに生まれた「比内地鶏」。長い伝統と比類なき食味を、地元JAグループが総力を挙げて守り育てています。

【畜産生産部】

平安時代から秋田県北部地域は「ひない」と呼ばれ、ここで比内地鶏は飼われてきました。比内地鶏は1942年に国の天然記念物に指定され、県がその血統を維持しています。

比内地鶏は肉がおいしい一方で体質が弱かったため、秋田県畜産試験場が比内地鶏を父親、ロードアイランドレッド種の鶏を母親としてかけあわせて「比内地鶏」を開発しました。1978年に比内地鶏の肉が

市場に出回り半世紀近くがたちます。比内地鶏は秋田名物きりたんぽ鍋の大事な具材であり、名古屋コーチン、薩摩地鶏とともに日本三大地鶏の一つとして知られています。

認証制度でブランド守る

秋田県比内地鶏ブランド認証制度は、県の管理のもと、生産者と加工業者が認証制度に登録し、協力して高品質の肉を生産する仕組みです。国が定める地鶏の基準よりも飼育日数が長く、飼育密度が低く、放し飼いをを行うことが特長です。広い放牧地で草や土を食べ、運動することで味わい深く締まった肉質となります。

秋田の伝統食を次世代へ

秋田県内で生産される比内地鶏の3分の2は県外、特に首都圏の高級料理店で消費されてきました。しかしコロナ禍で地鶏肉の需要

JAタウンで
購入できます



が激減しました。現在は行政の販売支援策を頼りつつ、農家収入に直結する生産羽数は減らさず運営しています。今後は関係先と協力し、外食需要の回復に努め、家庭消費や通信販売の開拓に取り組む、在庫を解消し、秋田の伝統食を次世代につなぐことが使命となります。

JA全農北日本くみあい飼料(株)
秋田比内地鶏加工センター
高村文治センター長



比内地鶏の生産者をはじめ、JA秋田たかのすほか県内の各JA、JA全農あきた、県や北秋田市、地元の関係先と日々支えあい奮闘しています。比内地鶏を永年愛する県内の消費者が求めやすい商品も作りたいですね。

プレゼント 「比内地鶏焼鳥申詰合せ」を5名様にプレゼントします。

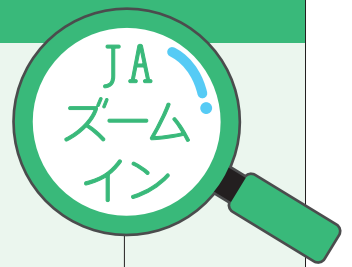


応募方法 件名に「ブランドヒストリープレゼント」、本文に郵便番号、住所、氏名、年齢、所属JA、電話番号、JA全農ウィークリーの感想をご記入の上、メールでご応募ください。

応募先 zz_zk_zennohweekly@zennoh.or.jp

締め切り 令和4年8月12日(金)23時59分

※応募者多数の場合は抽選で当選者を決定いたします。
また、当選の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。
※いただいた個人情報は、プレゼントの発送にのみ使用いたします。



島から中山間地まで多様な農業

「人を育む」「農を育む」「地域を育む」

JA尾道市は広島県の南部に位置し、尾道市と世羅町にまたがるエリアを管轄としています。管内の農業は瀬戸内海の島しょ部・沿岸部から北部中山間地域まで広域にわたり、「日本の縮図」とも言われるほど



にぎわう「ええじゃん尾道」尾道店

自然環境に恵まれ、多くの農産物が生産されています。

「生産現場の声」を重視した取り組み

2007年から営農振興計画をスタートさせ、「人を育む」「農を育む」「地域を育む」を基本方針に、担い手や農業者の育成、農家所得の向上に取り組んでいます。19年からは第5次営農振興計画に取り組み、管内の農事組合法人・担い手を対象にJA常勤役員が出勤き、生産現場の「声を聴く」活動、また生産者・園地台帳の整備を行うなど、生産者と結びついた施策を立てるための取り組みをすすめています。



ヒット商品となった「はっさくゼリー」と「はっさくシャーベット」

農家所得の最大化からヒット商品「はっさくゼリー」

農家所得の向上の取り組みの一つ、規格外のハッサクを使用したゼリーを開発し販売に力を入れ、年間360万個以上を売り上げています。19年には新たに「はっさくシャーベット」を商品化。CM作成、インターネット交流サイト（SNS）などを活用した拡大販売に取り組み、21年

JA尾道市 (広島県)



概要

(令和4年3月31日現在)

正組合員数	1万6718人
准組合員数	1万2833人
職員数	369人
販売品取扱高	33億1千万円
購買品取扱高	25億1千万円
貯金残高	2639億1千万円
長期共済保有高	5783億9千万円
主な農畜産物	米、かんきつ、桃、イチジク、ブドウ、ワケギ、アスパラガス、トマト、スナップエンドウ

は60万個を売り上げるヒット商品となり、「はっさくゼリー」に次ぐ「広島土産」として人気を得ています。

リニューアルした農畜産物直売所は県内有数に

20年10月には農畜産物直売所「ええじゃん尾道」尾道店を従来の約2倍の面積に増床し、農産物の売り場面積を増やし地産地消を軸とした「農家所得アップ営農運動」を進めました。県内の土産品を集めた「広島みやげ」売り場を新設し、県内外からの観光客を呼び込むことで、管内農産物のPRにも努めました。現在、出荷会員数は855人、21年度売上高

ブランド化を目指し新たな振興計画をスタート

22年度からは第6次営農振興計画をスタートさせ、農業塾や作物ごとの専門塾の開催、積極的に農家に出向むく営農指導、行政等関係機関と連携した就農支援などの活動を計画しています。さらに農産物のブランド化に向けて「尾道ブランド」「世羅ブランド」や全農ひろしまと耕畜連携・資源循環ブランド「3・R」の取り組みをすすめる付加価値向上と販売力の強化を図り、生産者の所得向上を目指します。

「JA全農presents青春アウトドア部」を放送

BS朝日で特番、「TVer」で8月2日から31日まで視聴可能

全農は7月31日、全国の高校で増加している「アウトドア部」の生徒にスポットをあてた1時間特番「JA全農presents青春アウトドア部」をBS朝日で放送しました。

【広報・調査部】

番組では、埼玉県の高校に通うアウトドア部員が、地元の食材を使ったアウトドア料理「地産地消!キャンプ飯」に挑みました。キャンプ飯を作る過程で、高校生自らが農家を訪ね農作業を体験することで、農業への理解や地産地消の大切さを学び、農産物直売

所での買い出しなどを通して農畜産物の流通やフードマイレージなどについて考えました。

参加した高校生からは、収穫した野菜の感想や、農業についての質問が出るなど、アウトドア部の活動をとおりて農業の魅力を発信する番組となっています。

「TVer」では8月2日10時(配信開始は前後する可能性があります)から31日22時まで視聴可能です。ぜひご視聴ください。

番組HPはこちら



参加したアウトドア部員の高校生たち



全国直営9店舗で九州のアスパラガスフェア

8月5日から31日まで4産地がリレー出荷

全農は、全国の直営飲食店舗(9店舗)で、8月5日から8月31日の間、「九州産アスパラガス主産県協議会」とのコラボレーション企画「みずみずしく柔らかい、夏のアスパラガスフェア」を開催します。昨年好評だったため、今年は店舗数を拡大して実施します。

今回のフェアでは、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県の4産地がリレー出荷するアスパラガスのサンドイッチや総菜など素材のおいしさを生かしたさまざまなメニューにアレンジして提供します。今が旬のみずみずしく柔らかいアスパラガスメニューをお楽しみください。【フードマーケット事業部】



旬野菜のふわりオムライスプレート(みのりカフェ季楽コムボックス佐賀駅前店)

期間 令和4年8月5日(金)~8月31日(水)

実施店舗

みのりカフェ三越銀座店/みのり食堂三越銀座店/みのりみのるチキン二子玉川 東急フードショー店/
和牛とごはん焼肉じゅん枚方市役所前店/みのりカフェアミュプラザ博多店/みのりカフェ福岡パルコ店/
みのり食堂アミュプラザ熊本店/みのりカフェ季楽コムボックス佐賀駅前店/みのりカフェ長崎駅前店

店舗の詳細はこちら



JA遠州中央

静岡県JA遠州中央管内の農産物を素材にした大地の恵みたっぷりのジェラートです。あっさりしているのに濃厚な風味は、暑い季節にもぴったり。

味の種類は「紅ほっぺミルク」「天竜 山の抹茶」「ほうじ茶」「にこまる玄米」「とうもろこし」など。3種類×2個入りの計6個でお届けします。旬の農作物を使用するため、どの味が入っているのかは届いてからのお楽しみです。



JA遠州中央 ときめきジェラート(6個セット×90ml)3000円(税込み)

ご注文はこちら



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは shop@ja-town1.com



『JA全農トピックス』の
ツイッターはこちらから



私たち全農グループは、
生産者と消費者を 安心で結ぶ懸け橋
になります。